



企画展「本土寺と戦国の社会」について

1. 目 的

松戸の鎌倉～戦国時代を語る上で、小金城／高城氏と本土寺は欠かせません。今回、本土寺様に全面的なご協力をいただきました。日蓮以来の数々の寺宝をお見せできるだけでなく、本土寺を出発点にして茨城から京都まで、各地の貴重な資料をお借りして、宗教・芸能・戦争のあり方など、戦国時代の意外な実態を紹介します。

2. 期 間

平成 29 年 9 月 23 日(土)～11 月 12 日 (日)

午前 9 時 30 分より午後 5 時まで (入場は午後 4 時 30 分まで)

3. 会 場

松戸市立博物館 企画展示室

4. 展示の内容・構成とポイント

(1)門外不出の寺宝展

日蓮聖人ゆかりの品々(書状や絵、曼荼羅本尊)を始めとして、歴代住職の遺品など、普段は決して見られない貴重な寺宝の数々を、わかりやすく展示します。

(2)みんな知らない、戦国時代の本土寺

全日蓮宗寺院の和解に、本土寺が大活躍したことが、最近わかりました。いまの東金市で、本土寺と武士が衝突した事件が、すべての始まりです。危機をチャンスに転じた住職のエピソードも交えて、本土寺経由の戦国時代を語ります。三好長慶・松永久秀ら有名人の書状や、近年発掘調査された有力信者原氏のお城の資料も展示します。

(3)過去帳からみる戦国時代

日本一有名な過去帳で、大きな図書館ならば誰でも手に取れる古記録が、本土寺過去帳です。そこには人気芸能人だった猿楽能の役者や、戦国時代に大きく発達した鍛冶屋の名前も記されます。本土寺と縁を持った職能民の姿を、当時の美しい能衣装、鎧・兜、何種類もの槍や火縄銃などを通して紹介します。また、彼らのような多くの人々と物資が行き来した場所として、町場の遺跡の出土資料もたくさんお借りします。

(4)大動乱と小さな襲撃事件

読み解くのがむずかしい古文書ですが、集めて並べてみると、意外な事実が見えてきます。博物館所蔵の千葉家当主の手紙と、昨年購入した西原文書を出発点に、織田信長・徳川家康・武田信玄・上杉謙信・北条氏康ら列島の半分を巻き込んだ動乱の最中、松戸で起こったある事件を掘り下げます。本土寺過去帳からは、常に戦死の危険



と隣合わせだった日常が、松戸の事件からは、目の前の敵を倒す以外の戦い方もあった事実が浮かび上がるでしょう。

5. おもな展示資料

- (1)…日蓮の画像 / 日蓮が仏教世界を表現した自筆の曼荼羅本尊(日本で3番目に大きいもの他) / 日蓮自筆の手紙 / 歴代住職が日蓮の筆使いに似せて作った曼荼羅本尊 / 日蓮の熱心な信者で支援者だった矢木氏にかかわる鏡、短刀、鍔、皿など。
- (2)…戦国時代に収集された日蓮の書状や論文の写し / 法事で使う金無垢の皿 / 歴代住職の曼荼羅本尊 / 京都を支配した三好長慶や松永久秀の手紙 / 原氏や高城氏、上杉謙信などから本土寺へ出された文書 / 戦国時代の熱心な信者だった原氏の本拠地・小西城(大網白里市)で近年発見された陶磁器や供養塔 / 戦国時代の住職日瑞の板碑(中世の供養碑。新発見)
- (3)…色鮮やかな安土桃山時代の能衣装 / 能の絵画 / 十文字槍 / 日本最古かもしれない火縄銃 / 長篠合戦図屏風 / 戦国時代に大量生産されるようになった簡便な鎧 / 足軽が着た簡素な鎧 / 曼荼羅本尊が描かれた陣羽織 / 柏市中馬場遺跡の出土資料
- (4)…小田原の大大名・北条氏康の国府台合戦4日前の徴兵命令書 / 滅びゆく名門今川氏真が援軍に与えた恩賞の確約書 / 史上もっとも早い時期に「天下布武」の朱印が押された織田信長の文書 / 下総国の防衛が手薄になったことがわかる足利義氏や北条氏政の手紙 / 松戸が襲撃されたことを記す千葉家当主からの連絡文 / 戦国時代の領主と村の関係がわかる西原文書の数々 / 戦乱の終結を象徴する徳川家康から本土寺に出された朱印状

6. 関連事業

- (1) 講演会 10月7日(土) 都守 基一^{つもり きいち}氏(常円寺日蓮仏教研究所主任研究員)
「本土寺の歴史と寺宝」
10月22日(日) 担当学芸員(中山文人)
「本土寺と戦国の社会」
11月11日(土) 長塚 孝氏(馬の博物館学芸部長)
「戦国社会の実像」
- (2) 展示解説会
9月24日(日)・9月30日(土)・10月1日(日)・10月14日(土)・
10月29日(日)・11月12日(日※いずれも午後2時より45分程度)

【問い合わせ先】

生涯学習部市立博物館 ☎047-384-8181



展示資料



① 日蓮聖人曼荼羅本尊（日本第3位の大きさ）
にちれんしょうにんまんだらほんぞん



② 千葉胤富書状（松戸襲撃事件）
ちばたねとみ



③ 縫箔 黒茶片身替鉄線 唐草薄扇散模様（能衣装）
ぬいはく くろちやかたみがわりてっせん からくさうすおうざらしもよう



④ 長篠合戦図屏風（鉄砲3段撃ちはフィクション？）
ながしのかつせんずびょうぶ



⑤ 火縄銃（日本最古かも）
ひなわじゅう



① にちれんしょうにんまんだらほんぞん 日蓮 聖人 曼荼羅 本尊 (本土寺蔵)

日本で3番目に大きいとされる、日蓮聖人直筆の曼荼羅本尊。法華経にもとづく仏教世界を表現した大切なものです。歴代の高僧も筆致を似せた本尊を描き、弟子や檀家に配布しました。

② ちばたねとみ 千葉 胤 富 書状 (市立博物館蔵)

「敵、松戸・市川まで相い散らし」で始まる、戦争被害を伝えた書状。昨年度購入の西原文書と組み合わせると、諸大名を巻き込んだ大動乱の渦中に、里見氏が畑作物を荒らしに襲来した事情が判明します。敵地を飢饉に陥らせる、当時の有効な戦術です。

③ ぬいはく くろちゃか たみがわりてっせん からくさうすおうぎちらしもよう 縫 箔 黒茶 片身 替 鉄線 唐草 薄扇散 模様 (東京国立博物館蔵)

本土寺過去帳には複数の猿樂師が出てきます。これは安土桃山時代の貴重な能衣装で、上質な柄違いの布地を半分ずつ縫い合わせることで、予想外の美しさが現れています。

④ ながしのかっせんずびようぶ 長篠 合戦図 屏風 (長浜市立長浜城歴史博物館蔵)

織田・徳川連合軍が、大量の鉄砲で武田軍を壊滅させた合戦を描いた屏風です。倒れ伏す武者に かち 徒歩 兵が多いのは、実は騎馬武者による突撃攻撃は無かった事実を示している、ともいわれています。

⑤ ひなわじゅう 火縄 銃 (長浜市立長浜城歴史博物館蔵)

本願寺の高級官僚 しもつま 下間 氏伝来の、とても古い形式とみなされる火縄銃。今後の研究次第では、現存日本最古の可能性もあります。槍や鎧も含めて、軍事産業発達の一面を振り返ります。